

新最終処分場の整備等に関する 住 民 説 明 会

日時 令和 7 年 1 月 19 日 (日)

午後 1 時 30 分～午後 3 時

場所 マリアージュ

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 説 明

(1) 生活環境影響調査結果について

(2) 施設の概要について

4 質疑応答

5 閉 会

【お問い合わせ先】 一関地区広域行政組合 総務管理課
電話番号 0191-21-2111 (内線8751)

一関地区広域行政組合LINE公式アカウント（施設整備関係）

【登録方法】 右の二次元コードをスマートフォンなどで読み取り、
「追加」 ボタンを押して登録します。

LINE 公式アカウント



一関地区広域行政組合ホームページ

URL <https://www.ichinoseki.iwate.jp/kouiki-gyousei/>

右の二次元コードをスマートフォンなどで読み取り、ホームページ
画面を開くことができます。

ホームページ



前回までの住民説明会の開催状況

開催	時期	会場数	回数	のべ参加者	主な説明内容
第1回	R1.12.1 ～17	8会場	8回	263人	最終選考候補地を4か所としたこと
第2回	R2.7.3 ～8	8会場	10回	158人	候補地の絞込み方法(案) ほか
第3回	R2.9.11 ～16	8会場	10回	149人	候補地の評価(中間)の状況について ほか
第4回	R2.11.6 ～10	8会場	8回	126人	候補地の評価(案) ほか
第5回	R3.6.26 ～29	3会場	3回	30人	① 新処理施設の焼却方式(案)、事業方式(案) ② 新最終処分場の漏水検知システムの導入(案)、 浸出水処理施設の規模の考え方(案) ほか
第6回	R4.3.1 ～6	4会場	4回	30人	施設整備基本計画(案)の概要
第7回	R4.11.19 ～25	5会場	6回	322人	新最終処分場の候補地選定の経過 ほか
第8回	R5.2.20 ～26	4会場	4回	152人	① 新処理施設の検討状況 ② マテリアルリサイクル推進施設の検討状況 ③ 新最終処分場の検討状況
第9回	R5.6.20 ～25	4会場	4回	53人	マテリアルリサイクル推進施設整備基本計画 (案)について
第10回	R5.9.25	1会場	1回	70人	生活環境影響調査について
第11回	R5.12.17 ～21	2会場	2回	14人	環境影響評価準備書について
			計	1,367人	

千厩地区説明会の開催状況

開催	時期	会場数	回数	のべ参加者	主な説明内容
第1回	R3.6.27	1会場	1回	67人	① これまでの説明会の概要について ② 新最終処分場の漏水検知システムの導入(案)について ③ 新最終処分場の浸出水処理施設の規模の考え方(案)について ④ 今後の予定について など
第2回	R4.3.5 ～6	1会場	3回	71人	① 候補地選定の経過について ② 一般廃棄物最終処分施設整備基本方針(案)について ③ 今後の予定について
			計	138人	

新最終処分場の整備等に関する 住民説明会

(第12回)

日時 令和7年1月19日(日) 13:30~15:00

場所 マリアージュ



一関地区広域行政組合

1

本日の説明内容

- (1) 生活環境影響調査結果について
- (2) 施設の概要について



2



【説明内容】

1. はじめに
2. 生活環境影響調査とは
3. 生活環境影響調査の項目
4. 現況調査
5. 影響予測、評価
6. 環境配慮事項
7. 生活環境影響調査のまとめ
8. 生活環境影響調査書の縦覧について
9. 意見書の提出方法について

3

1. はじめに

- 一関地区広域行政組合では、平成10年3月に竣工した舞川清掃センター及び昭和58年3月に竣工した東山清掃センターにおいて焼却残渣などの最終処分を行っています。
- いずれの最終処分場も埋立容量が少なくなっており、新たな施設の整備が必要となっていることから、現在の最終処分場に代わる新たな一般廃棄物最終処分場を整備することとしました。
- 最終処分場の設置に当たり、生活環境の保全に十分に配慮しながら進めるために「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基き、生活環境影響調査を実施しました。

4

【事業の概要】

施設の名称	(仮称) 新一般廃棄物最終処分場
設置場所	岩手県一関市千厩町千厩字北ノ沢地内
事業の種類	一般廃棄物最終処分場
埋立対象物	焼却残渣、不燃残渣及び不燃物
構造形式	オープン型
埋立面積	約1.96ha
埋立容量	126,800m ³ (廃棄物：95,100m ³ 、覆土量：31,700m ³)
浸出水処理水の放流先	北ノ沢川

5

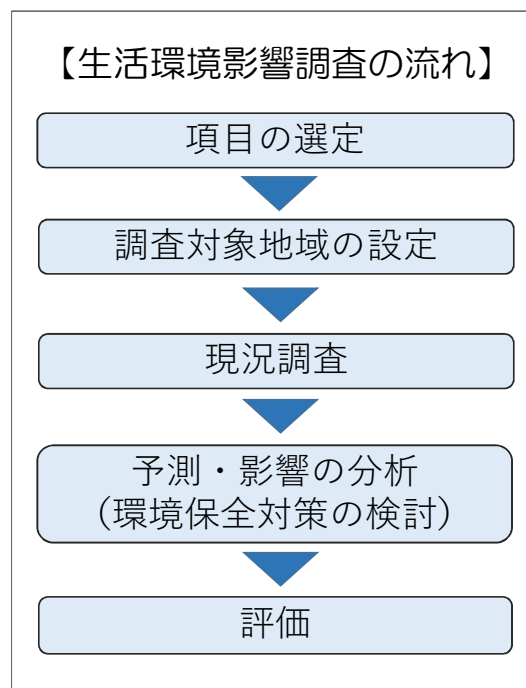
事業範囲



6

2. 生活環境影響調査とは

- 生活環境影響調査は、施設の設置者が、**周辺の生活環境へ及ぼす影響について、事前に現況調査・予測・評価を行い、生活環境に支障が生じないことを確認するものです。**
- 生活環境影響調査の方法等については環境省の「**廃棄物処理施設生活環境影響調査指針**」で定められており、本事業もこの内容に準拠して調査を行いました。



7

3. 生活環境影響調査の項目

- 生活環境影響調査を実施する項目について、指針の中では、事業ごとに影響の生じる可能性のある内容を整理しています。
- 本調査では、**最終処分場で推奨される項目を全て実施**しました。

表：選定した生活環境影響調査項目

生活環境影響調査項目			生活環境影響要因	施設から浸出水処理設備からの放流水の放流	最終処分場の存在	施設（浸出水処理設備）の稼働	埋立作業	施設からの悪臭の発生	廃棄物運搬車両の走行
調査事項	大気環境	大気質	粉じん				○		
			二酸化窒素（NO ₂ ）						○
			浮遊粒子状物質（SPM）						○
		騒音	騒音レベル			○	○		○
		振動	振動レベル			○	○		○
		臭気（悪臭）	特定悪臭物質（22物質） 臭気指数（臭気濃度）					○	
	水環境	水質	生物化学的酸素要求量（BOD）	○					
			ダイオキシン類	○					
			浮遊物質（SS）	○					
		地下水	地下水の流れ		○				

8

4. 現況調査

地域の環境の状況や、予測の計算条件を把握するために、
令和5年12月～令和6年11月にかけて現況調査を実施しました。

表：現況調査の実施内容

項目	調査項目	調査地点	調査時期
大気質	粉じん（降下ばいじん）	1地点： 埋立地内	春、夏、秋、冬（各1ヶ月）
	気象（風向・風速）	1地点： 埋立地内	通年観測
	浮遊粒子状物質、二酸化窒素	1地点： 運搬ルート沿い	冬（1週間）
騒音	環境騒音	5地点： 周辺の集落等	秋（平日の3日間）
	道路交通騒音、交通量	1地点： 運搬ルート沿い	
振動	環境振動	5地点： 周辺の集落等	秋（平日の3日間）
	道路交通振動、地盤卓越振動	1地点： 運搬ルート沿い	
悪臭	特定悪臭物質、臭気指数	2地点： 埋立地、現行施設	夏
水質	生活環境項目、健康項目、ダイオキシン類、流量	2地点： 北ノ沢川、千厩川	低水量時、豊水量時
地下水	地下水質項目、環境基準項目、ダイオキシン類、地下水位	2地点： 事業実施区域内（上流、下流）	低水量時、豊水量時



騒音調査



悪臭調査（現行施設）



水質調査

9

【現況調査の結果】

- 現況調査の結果、大気質、振動、悪臭、水質、地下水に大きな環境上の問題は確認されませんでした。
- ただし、市道構井田鳥羽線沿いの騒音については、現状で環境基準を超過となっていました。

表：現況調査の結果概要(1)

項目	調査項目	調査結果の概要
大気質	粉じん（降下ばいじん）	最大季節時（春季）で、敷地境界で $1.2\text{g}/\text{m}^2/\text{月}$ と低い値となった
	気象（風向・風速）	谷地形に沿って風が流れやすく、年間で西北西からの風が卓越
	浮遊粒子状物質、二酸化窒素	道路沿道の濃度は、環境基準と比較して非常に低い値となった
騒音	環境騒音	周辺5地点での調査結果は、昼間34～46dB、夜間29～37dBであり、全地点で環境基準を満たした
	道路交通騒音、交通量	道路沿道の騒音レベルは、昼間61dB、夜間52dBであり、環境基準を上回りました。（環境基準は、昼間55dB、夜間45dB）

10

【現況調査の結果】

表：現況調査の結果概要(2)

項目	調査項目	調査結果の概要
振動	環境振動	周辺5地点の全地点で、昼夜ともに25dB未満と低い値となった
	道路交通振動、地盤卓越振動	道路沿道の振動レベルは、昼間28dB、夜間25dB未満であり、要請限度値を満たした
悪臭	特定悪臭物質、臭気指数	予定地及び現行の最終処分場における臭気は、いずれも参考目標とした規制基準を全項目で満たした
水質	生活環境項目、健康項目、ダイオキシン類、流量	北の沢側川では溶存酸素量、千厩川では大腸菌数の値が環境基準を超過したが、それ以外は環境基準を満たした
地下水	地下水質項目、環境基準項目、ダイオキシン類、地下水位	事業地内の地下水は、地形的な勾配に沿って流下していた。埋立地の下流側での井戸利用はない

11

5. 影響予測、評価

- 以下の9つの事項の環境影響について予測を実施しました。
- 予測は、現在の施設計画や現地調査で得られた諸条件をもとに、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」に記載の手法や計算式により行いました。

表：予測内容

項目	予測項目
大気質、騒音、振動	①埋立作業による紛じん
	②施設の稼働による騒音レベル
	③施設の稼働による振動レベル
	④廃棄物運搬車両の走行による二酸化窒素、浮遊粒子状物質
	⑤廃棄物運搬車両の走行による騒音
	⑥廃棄物運搬車両の走行による振動
悪臭	⑦施設（埋立地）からの臭気の発生
水質	⑧浸出水処理施設からの処理水の放流
地下水	⑨最終処分場の存在による地下水の流れ

12

【①埋立作業による粉じんの予測結果・評価結果】

【予測の方法】

既存文献から得た埋立作業中に伴い発生する粉じん量について、現況調査で把握した風条件を用いて、周辺にどの程度拡散するかを、指針等に基づく計算式から算出しました。

【予測結果、評価結果】

- ・季節別降下ばいじん量は、**最大季節時でも 9.3g/m²/月**となりました。
- ・参考目標とした10g/m²/月以下となり、**基準又は目標との整合性は図られていると評価**しました。

表：予測結果、評価結果

地点	季節別降下ばいじん量 (g/m ² /月)				環境保全 目標 (参考値)	評価
	春季	夏季	秋季	冬季		
敷地境界 (東側)	4.1	2.8	9.3	4.4	10g/m ² /月	○
最寄り住宅地付近 (北側)	0	0	0	0		○
最寄り住宅地付近 (東側)	1.0	0.6	4.2	0.9		○
最寄り住宅地付近 (西側)	0	0	0	0		○
木六地区公民館付近	0	0	0	0		○
千厩高校付近	0	0	0	0		○

参考値は、「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について」におけるスパイクタイヤ粉じんに関する指標値 (20g/m²/月) を踏まえ、「道路環境影響評価の技術手法 (平成24年度版)」(平成25年3月、国土技術政策総合研究所) において参考値として提案している10g/m²/月を用いた。

13

【②施設の稼働による騒音レベルの予測結果・評価結果】

【予測の方法】

廃棄物の埋立時に用いる重機や、騒音の発生源となり得る浸出水処理施設内の機器を配置した際の、敷地境界や周辺の保全対象に与える騒音レベルを、指針等に基づく計算式から算出しました。

【予測結果、評価結果】

- ・施設稼働に係る騒音は、**最も影響を受ける事業地敷地境界 (東側) で47dB**となりました。
- ・住居では、最大となった**最寄り住宅地付近 (東側) で46dB**となりました。
- ・敷地境界における規制基準や、周辺住居における環境基準を下回っており、**基準との整合は図られていると評価**しました。

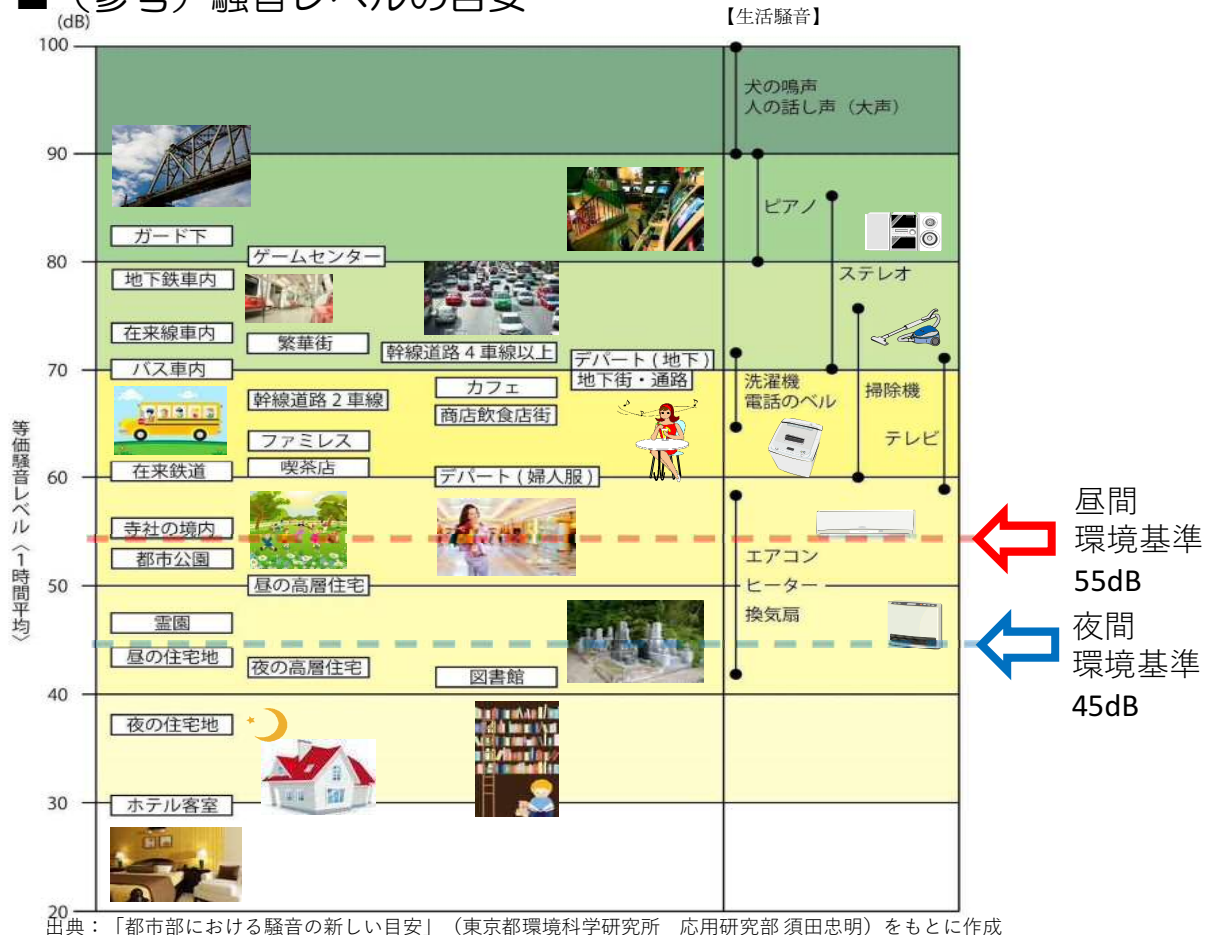
表：予測結果、評価結果

地点	騒音レベル (単位: dB)		環境保全目標 (規制基準又は環境基準)	評価
	昼間	夜間		
事業地敷地境界 (東側)	47	—	(規制基準) 昼間 (8時~18時): 65dB以下	○
最寄り住宅地付近 (北側)	41 (17.4)	37	(環境基準) 昼間 (6時~22時): 55dB 夜間 (22時~6時): 45dB	○
最寄り住宅地付近 (東側)	46 (31.1)	33		○
最寄り住宅地付近 (西側)	42 (29.8)	30		○
木六地区公民館付近	43 (13.9)	34		○
千厩高校付近	35 (18.3)	30		○

※ () は施設の稼働による寄与値を表す。

14

■（参考）騒音レベルの目安



15

【③施設の稼働による振動レベルの予測結果・評価結果】

【予測の方法】

廃棄物の埋立時に用いる重機や、騒音の発生源となり得る浸出水処理施設内の機器を配置した際の、敷地境界や周辺の保全対象に与える振動レベルを、指針等に基づく計算式から算出しました。

【予測結果、評価結果】

- 施設稼働に係る振動は、最も影響を受ける事業地敷地境界（東側）で46dBとなりました。
- 住居では、最大となった最寄り住宅地付近（東側）で31dBとなりました。
- 敷地境界における規制基準や、目標とした参考値以下となり、基準又は目標との整合は図られていると評価しました。

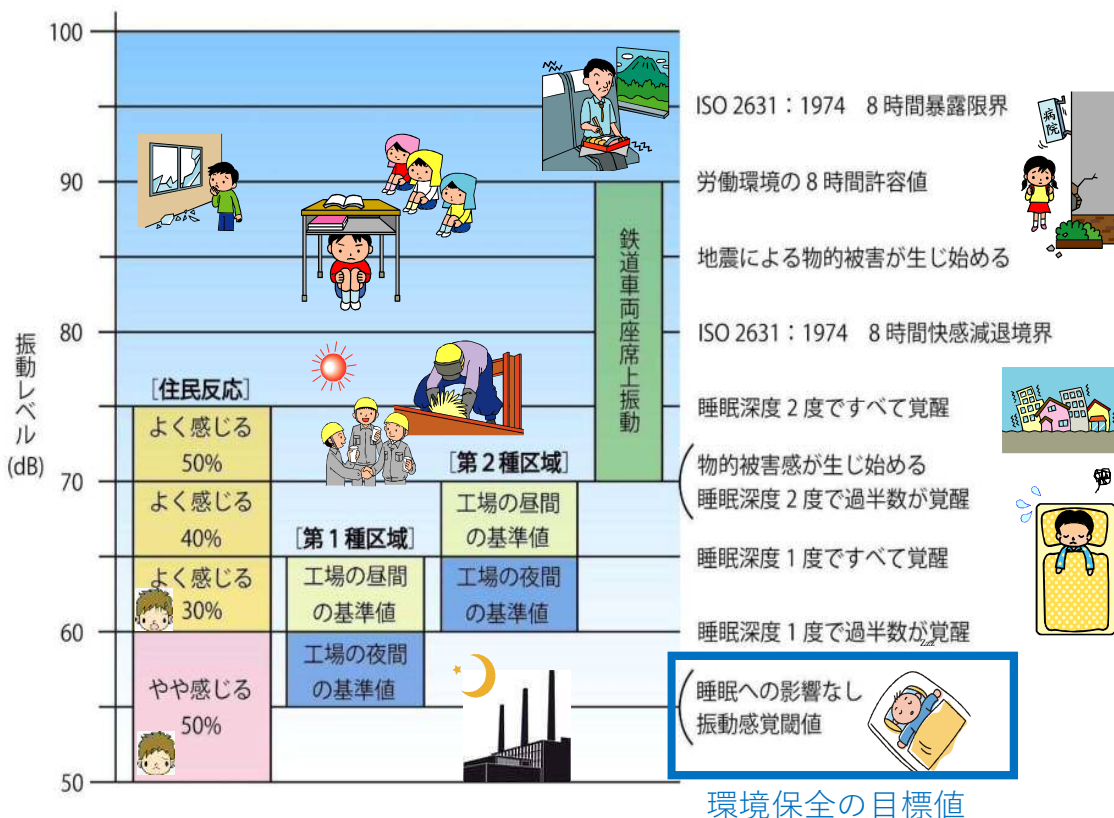
表：予測結果、評価結果

地点	振動レベル (単位：dB)		環境保全目標 (規制基準又は環境基準)	評価
	昼間	夜間		
事業地敷地境界（東側）	46	—	(規制基準) 昼間（6時～21時）：65dB以下	○
最寄り住宅地付近（北側）	<25	<25	(参考値) 人が振動を感じ始めるとされる感覚閾値 ：55dB以下	○
最寄り住宅地付近（東側）	31 (29.3)	<25		○
最寄り住宅地付近（西側）	<25	<25		○
木六地区公民館付近	<25	<25		○
千厩高校付近	<25	<25		○

※（ ）は施設の稼働による寄与値を表す。

16

■（参考）振動レベルの目安



出典：「新・公害防止の技術と法規」（公害防止の技術と法規 編集委員会 編）をもとに作成

17

【④廃棄物運搬車両の走行による 二酸化窒素・浮遊粒子状物質の予測結果・評価結果】

【予測の方法】

廃棄物運搬車両の1日あたりの運行台数（廃棄物運搬車両5台、管理用の一般車4台）が走行した際に排出される二酸化窒素や浮遊粒子状物質について、現況調査で把握した風条件を用い、周辺に拡散する濃度を指針等に基づく計算式から算出しました。

【予測結果、評価結果】

- 車両運行時の二酸化窒素の日平均値（年間98%値）は0.013ppm、浮遊粒子状物質の日平均値（年間2%除外値）は0.024ppmとなりました。
- 目標とした環境基準よりも低い値となり、基準との整合は図られていると評価しました。

表：予測結果、評価結果

運搬ルート沿道 （千厩森林事務所付近）	予測濃度 （単位：ppm/日）	環境保全目標 （環境基準）	評価
二酸化窒素	0.013	0.04～0.06までのゾーン内またはそれ以下	○
浮遊粒子状物質	0.024	0.10以下	○

18

【⑤廃棄物運搬車両の走行による騒音の予測結果・評価結果】

【予測の方法】

1日あたりの運行台数（廃棄物運搬車両5台、管理用の一般車4台）が走行した際の、道路沿道の騒音レベルを、指針に基づく予測式（ASJモデル）より算出しました。

【予測結果、評価結果】

- 車両運行時の沿道の騒音レベルは61.4dBとなりました。
（このうち、廃棄物運搬車両の影響は0.3dBと僅かである）
- 廃棄物運搬車両による負荷量は0.3dBと僅かなことから、目標との整合は図られていると評価しました。

表：予測結果、評価結果

地点	騒音レベル (単位：dB)	環境保全目標	評価
運搬ルート沿道 (千厩森林事務所付近)	昼間：61.4dB (運搬車両の走行による 増加分は0.3dB)	現況値である61dBを著しく悪化させないこと ※現状で既に環境基準（昼間55dB以下）を上 回っているため、現況値から著しく悪化さ せないことを目標とした	○

19

【⑥廃棄物運搬車両の走行による振動の予測結果・評価結果】

【予測の方法】

廃棄物運搬車両の1日あたりの運行台数（廃棄物運搬車両5台、管理用の一般車4台）が走行した際の、道路沿道の振動レベルを、指針に基づく計算式より算出しました。

【予測結果、評価結果】

- 車両運行時の振動レベルは31dBとなりました。
- 目標とした基準または参考値以下であり、基準又は目標との整合は図られていると評価しました。

表：予測結果、評価結果

地点	振動レベル (単位：dB)	環境保全目標	評価
運搬ルート沿道 (千厩森林事務所付近)	昼間：31.1dB (このうち、運搬車両の走 行による増加分は2.8dB)	(要請限度) 昼間(7時～20時)：65dB以下 (参考目標) 人が振動を感じ始めるとされる 感覚閾値：55dB以下	○

20

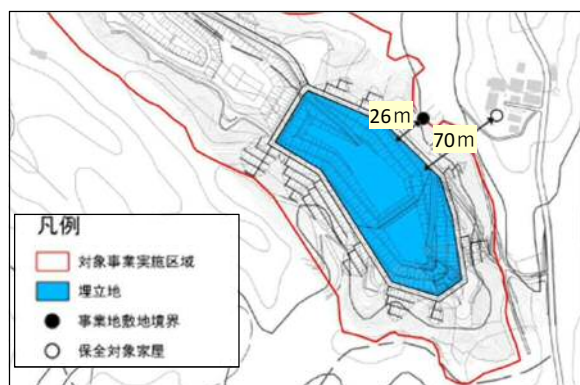
【⑦施設(埋立地)からの臭気の発生の予測結果・評価結果】

【予測の方法】

舞川最終処分場（供用中の現行施設）の臭気の確認状況をもとに、新最終処分場が稼働した後の近隣の臭気発生状況を、施設からの距離を踏まえて定性的に予測しました。

【予測結果、評価結果】

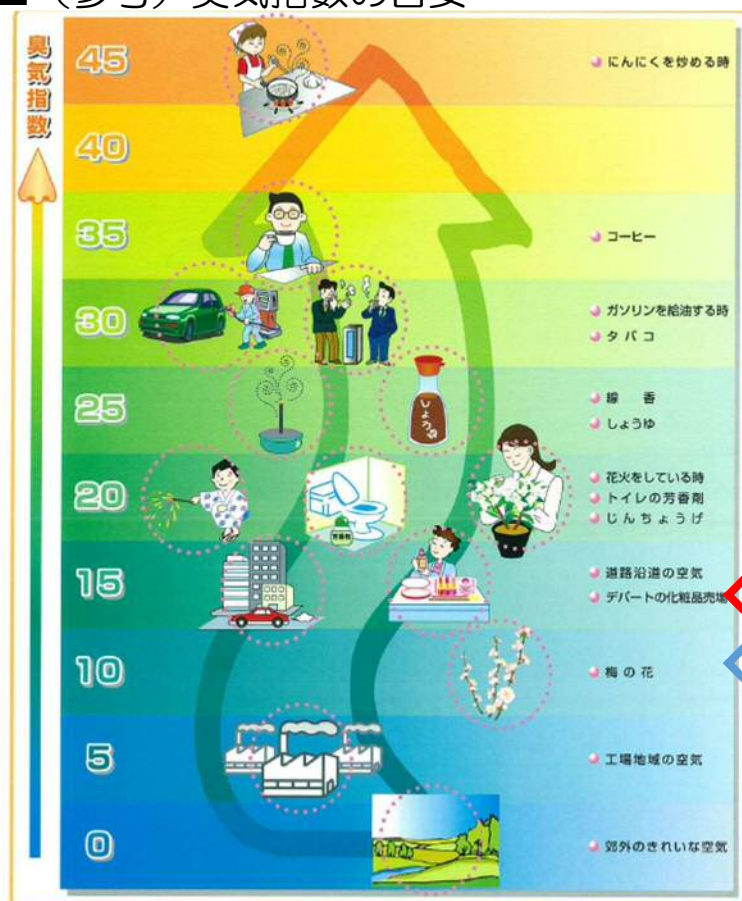
- 現行施設の埋立地境界(0m)で測定した結果、規制基準や臭気指数(10以下)を満たしました。
- 新最終処分場の埋立地からの距離は、最も近い敷地境界まで26m、保全対象の住宅地付近まで70m離れており、現行施設の測定結果よりも値は低くなると考えられます。
- 目標とした敷地境界での悪臭防止法の規制基準を満たすことから、基準との整合は図られていると評価しました。



図：最寄敷地境界及び保全対象家屋までの距離

21

■（参考）臭気指数の目安



岩手県規制基準
(一関市は対象外)

敷地境界(工業地域):15

敷地境界(工業地域以外):12

22

【⑧浸出水処理施設からの処理水の放流による水質の予測結果・評価結果】

【予測の方法】

浸出水処理施設からの処理水が混ざった時の北ノ沢川、千厩川の水質の変化を、指針等に基づく方法（合理式）により算出しました。

【予測結果、評価結果】

- 水量が少ない時期であっても、北ノ沢川、合流後の千厩川ともに、BOD、浮遊物質、ダイオキシン類の環境基準を満たしました。
- 目標とした基準以下となり、基準との整合は図られていると評価しました。

表：予測結果、評価結果

河川	項目	予測濃度 (低水量時)	環境保全目標 (環境基準 A類型)	評価
北ノ沢川	生物化学的酸素要求量(BOD)	1.3mg/L	2.0mg/L	○
	浮遊物質	2.3mg/L	25mg/L	○
	ダイオキシン類	0.47pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	○
千厩川	生物化学的酸素要求量(BOD)	1.0mg/L	2.0mg/L	○
	浮遊物質	1.1mg/L	25mg/L	○
	ダイオキシン類	0.066pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	○

23

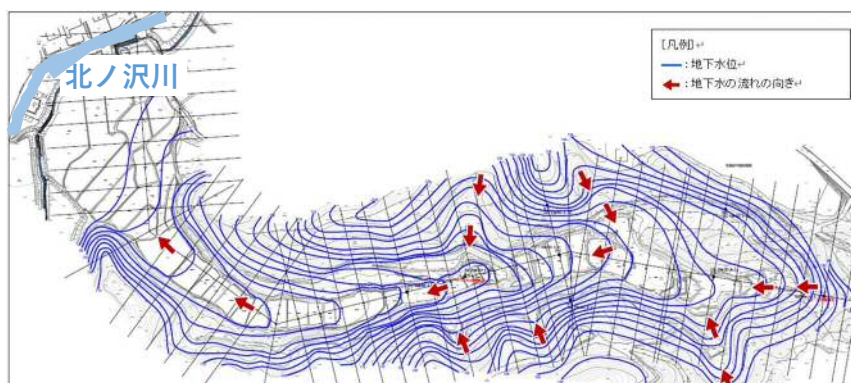
【⑨最終処分場の存在による地下水の流れの予測結果・評価結果】

【予測の方法】

新最終処分場の造成計画を確認し、事業地内の地質や地下水位の高さと重ね合わせて、最終処分場の存在が、下流側の地下水の水位及び流動状況に影響を及ぼすかどうかを予測しました。

【予測結果、評価結果】

- ボーリング調査より、地下水は、地形的な勾配に沿って北ノ沢川方向に流下していることが分かりました。
- 事業実施区域の下流側には井戸利用は確認されておりません。



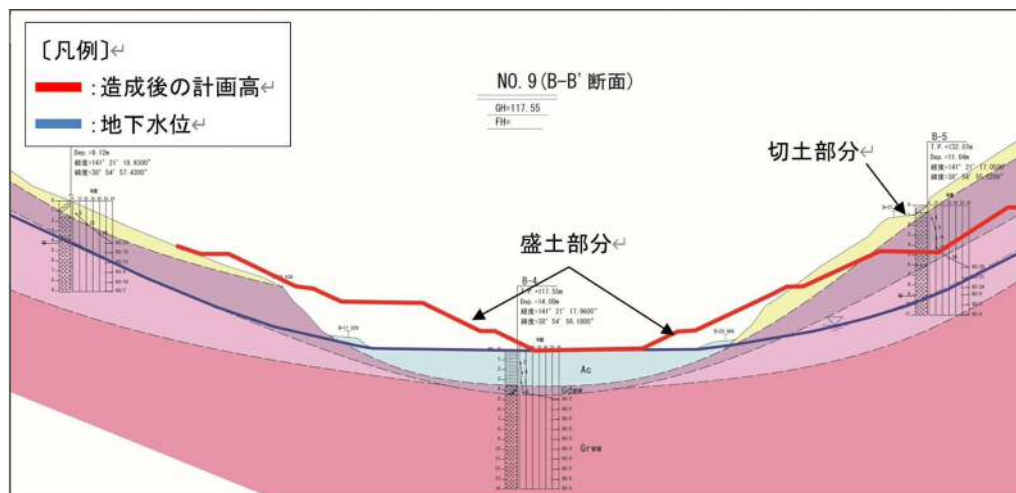
図：地下水の流下方向

24

【⑨最終処分場の存在による地下水の流れの予測結果・評価結果】

【予測結果、評価結果】

- ・本事業では、法面施工箇所の切土工や、埋立地での表層の掘削が生じますが、法面の切土については、地下水位面よりも上部となります。また、掘削は表層の一部のみであり、透水性の高い層の改変はありません。
- ・目標とした「地下水の水位及び流動状況に影響を及ぼさないこと」との整合は図られていると評価しました。



図：最終処分場の設置と地下水の関係（横断面図）

25

6. 環境配慮事項

- 周辺への環境影響は低いものと予測されておりますが、さらなる環境への配慮のため、本事業では、以下の環境配慮事項を実施しながら進めてまいります。

表：本事業における環境配慮事項

項目	環境配慮事項	
大気質、騒音、振動	埋立時の粉じん等	・埋立区域への散水の実施 ・排ガス対策機械の使用 ・廃棄物運搬車両の出口でのタイヤ洗浄 ・埋立地周囲のネットフェンスの設置 ・日常の管理作業で飛散物を取り除く
	埋立時の騒音・振動	・低騒音型重機の使用 ・低振動型重機の使用
	廃棄物運搬車両の走行	・車両運行時間の分散化 ・廃棄物運搬車両の点検・整備 ・廃棄物運搬車両の適正な走行速度の指導
悪臭		・準好気性埋立構造の維持による臭気の発生抑制 ・廃棄物運搬車両の出口でのタイヤ洗浄 ・即日覆土の実施
水質		・浸出水処理施設の適正な運転管理 ・定期的な水質検査の実施
地下水		・地下水位のモニタリングによる異常の早期発見

26

7. 生活環境影響調査のまとめ

- 環境影響調査を実施した各項目とも事業の実施による影響の回避又は低減に係る対策は適切であり、かつ施設の稼働後も生活環境の保全目標を達成すると評価しました。
- 本事業の実施に当たって、予測されない影響が生じた場合及びその恐れが予想された場合は速やかに対策を講じ、周辺環境に影響が生じることがないように配慮を行います。

27

8. 生活環境影響調査書の縦覧について

縦覧期間 令和7年1月6日（月）

～令和7年2月5日（水）

縦覧場所 一関地区広域行政組合 総務管理課

一関市役所千厩支所 市民福祉課

※上記縦覧場所のほか、組合ホームページでも公開しています。

28

9. 意見書の提出方法について

提出期限 令和7年2月19日（水）（消印有効）

提出方法 縦覧場所の意見書箱へ投函、郵送、FAX、メール

提出先 一関地区広域行政組合総務管理課宛

住所：〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号

FAX：0191-31-3224

メール：somukanri@city.ichinoseki.iwate.jp

提出様式 任意

- ・提出される方は、住所、氏名、施設の名称、意見を記載ください。

29

(2) 施設の概要について



- 事業概要
- 災害等に関する安全性について
- 今後の予定

30

■ 事業概要イメージ(1+2期)



31

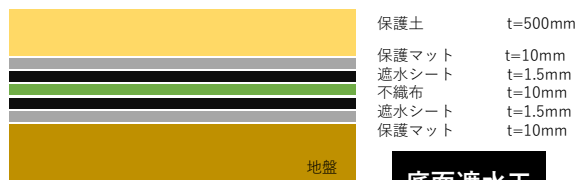
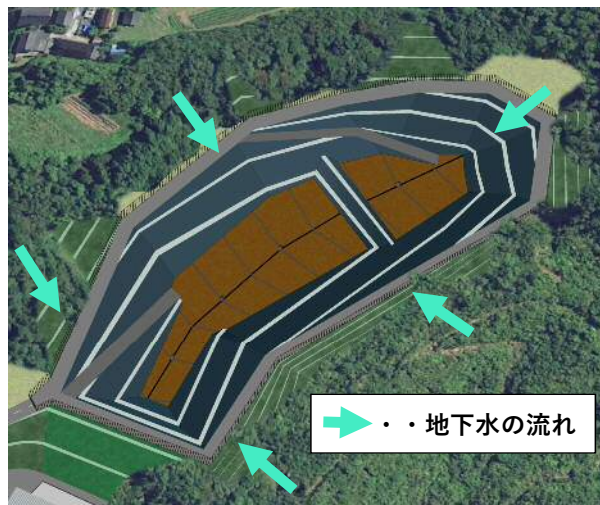
■ 事業概要(新一般廃棄物最終処分場)

項目	内容	補足
埋立地 規模	全体規模 126,800m³ 1期 80,600m³ 2期 46,200m³	埋立期間は 25年 1期 15年 2期 10年
埋立対象	一般廃棄物（焼却残渣、不燃残渣及び不燃物）	
構造形式	オープン型	
浸出水 処理施設	処理規模 100m³/日 ⇒ 135m³/日 浸出水調整槽 1,400m³ ⇒ 2,000m³	基本設計において千厩気象観測所過去30年（1992～2021）の気象データのほか、年間降水量が最大の年である1991年を加えた31年間のデータを基に水収支計算を行い規模を算出。 実施設計により内容を精査し、より安全に処理を行えるよう修正しました。
緩衝 緑地帯	生活圏からの景観に配慮し、緑地帯や植林などを検討します。	今後、地域住民の皆様と意見交換させていただきながら進めて参ります。

■ 災害等に関する安全性について

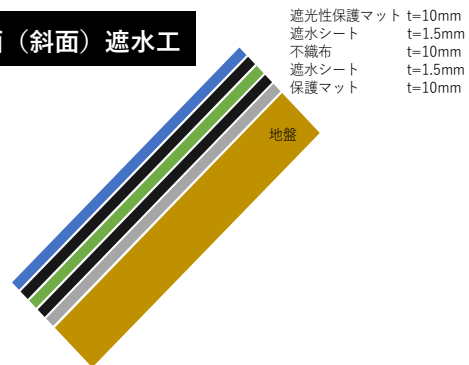
・埋立地内の構造について

Q：漏水し、井戸水などに影響があるのではないか。

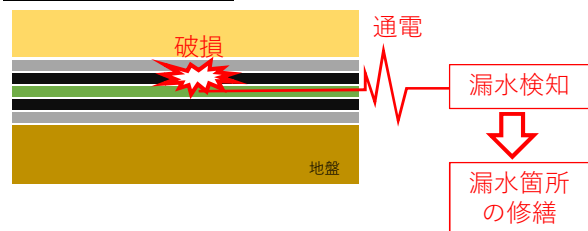


底面遮水工

法面（斜面）遮水工



漏水検知システム



33

■ 災害に関する安全性について

・埋立地内の構造について（廃止について）

Q：埋立完了した後、ごみが埋まったままになるのは危険ではないか。



34

■ 災害等に関する安全性について

・土砂災害への対策について

Q：土砂災害によって施設全体が崩れて流されないか。



現在、岩手県にて進めている、
『新たな「土砂災害が発生する
おそれのある箇所」の公表箇所』
(図は該当箇所イメージ)

について、浸出水処理施設及び埋立地、
防災調整池を整備する予定の範囲が含ま
れていることから、令和6年中に県土砂
法担当部局に相談したところ、以下のと
おり回答がありました。

「計画どおり適正に建設されれば、
土砂災害警戒区域の指定要件を満た
さないと考えられる」(県担当部局)



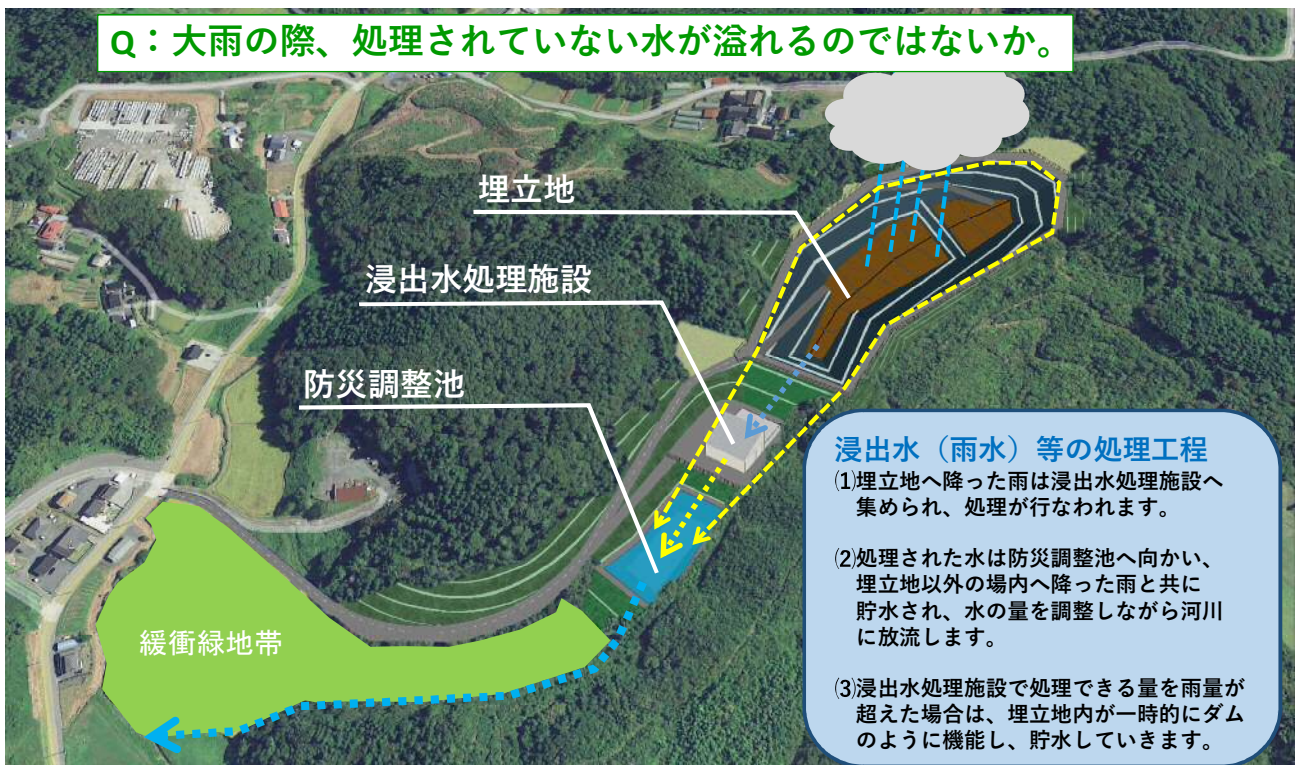
組合としては、土砂災害警戒区
域には該当しないものと考えて
おり、さらに施設が出来ること
で現状よりも災害の危険性が低
減されるものと考えています。

35

■ 災害等に関する安全性について

・浸出水(雨水)等の流れについて

Q：大雨の際、処理されていない水が溢れるのではないか。



浸出水(雨水)等の処理工程

- (1)埋立地へ降った雨は浸出水処理施設へ
集められ、処理が行なわれます。
- (2)処理された水は防災調整池へ向かい、
埋立地以外の場内へ降った雨と共に
貯水され、水の量を調整しながら河川
に放流します。
- (3)浸出水処理施設で処理できる量を雨量が
超えた場合は、埋立地内が一時的にダム
のように機能し、貯水していきます。

36

- 災害等に関する安全性について
 - ・浸出水(雨水)等に対する能力について



37

■ 今後の予定

令和6年10月開催の一関地区広域行政組合議会において、用地取得議案が可決されたことから、今後は「建設予定地」として進めることとなりました。

工事等については、立木伐採、文化財調査などを行い、順次工事等を進める予定としております。

施設関係

- ・造成工事
- ・浸出水処理施設工事

1期埋立地の
工事を実施

周辺関係

- ・緩衝緑地帯の活用
- ・施設の運営など

地域住民の
皆様と意見交換

38

ご清聴ありがとうございました。



【意見書の提出方法】 意見書は、下記の期限までに郵送またはファクシミリ、電子メールにより、下記の提出先へ送付いただくか、縦覧場所に備え付けております意見書箱にご投函下さい。 ・提出期限 令和7年2月19日(水)午後5時15分まで（郵送の場合は当日消印有効） ・提出先 〒021-8501 一関市竹山町7-2 一関地区広域行政組合総務管理課 FAX：0191-31-3224 E-mail：somukanri@city.ichinoseki.iwate.jp 【意見書の記載に際して】 生活環境の保全上の見地から、調査書についてご意見をお持ちの方は以下の内容について記載のうえ提出してください。	
氏名（法人その他の団体にあつてはその名称、代表者の氏名）	
住所（法人その他の団体にあつては登記された事務所の又は事業場の所在地）	〒
施設の名称	（仮称）新一般廃棄物最終処分場
【意見】生活環境の保全上の見地からの意見	

【意見】

新一般廃棄物最終処分場に係る生活環境影響調査書のあらまし

(1) はじめに

一関地区広域行政組合では、平成 10 年 3 月に竣工した舞川清掃センター及び昭和 58 年 3 月に竣工した東山清掃センターにおいて焼却残渣などの最終処分を行っています。いずれの最終処分場も埋立容量が少なくなっており、新たな施設の整備が必要になっています。このような状況から、新たな一般廃棄物最終処分場を整備することとしました。

一関地区広域行政組合は、本事業の実施に当たり、生活環境の保全に十分に配慮しながら進めるため、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、生活環境影響調査を実施しました。

(2) 施設の概要

施設の名称	(仮称) 新一般廃棄物最終処分場
設置場所	岩手県一関市千厩町千厩字北ノ沢地内
事業の種類	一般廃棄物最終処分場
埋立対象物	焼却残渣、不燃残渣及び不燃物
埋立面積	約 1.96ha
埋立容量	126,800m ³ (廃棄物：95,100m ³ 、覆土量：31,700m ³)
浸出水処理水の放流先	北ノ沢川

(3) 現況調査

生活環境影響調査では、大気質、騒音、振動、臭気（悪臭）、水質、地下水について、令和 5 年 12 月から令和 6 年 11 月にかけて現況調査を実施しました。調査項目及び調査地点は、表 1 のとおりです。

表 1：調査項目及び調査地点

調査項目	調査事項	調査地点
①大気質	粉じん、気象	対象事業実施区域内
	二酸化窒素・浮遊粒子状物質	運搬ルート沿道（千厩森林事務所付近）
②騒音 ③振動	環境騒音・振動	最寄り住宅地付近（北側）、最寄り住宅地付近（東側）、最寄り住宅地付近（西側）、木六地区公民館付近、千厩高校付近
	道路交通騒音・振動	運搬ルート沿道（千厩森林事務所付近）
④臭気（悪臭）	特定悪臭物質、臭気指数	対象事業実施区域内、現行施設（舞川最終処分場）
⑤水質	河川水質（環境基準項目）	放流水路（北ノ沢川）、千厩川
⑥地下水	地下水位、水質	事業実施区域内の上流側、下流側

(4) 予測

大気質、騒音、振動、臭気（悪臭）、水質、地下水について、施設の稼働時における将来予測を実施しました。予測項目及び予測地点は、表 2 のとおりです。

表 2：予測項目及び予測地点

予測項目	予測事項	予測地点
①大気質 ②騒音 ③振動	埋立作業に係る粉じん、騒音、振動	敷地境界、最寄り住宅地付近（北側）、最寄り住宅地付近（東側）、最寄り住宅地付近（西側）、木六地区公民館付近、千厩高校付近
	運搬車両に係る二酸化窒素・浮遊粒子状物質、騒音、振動	運搬ルート沿道（千厩森林事務所付近）
④臭気（悪臭）	臭気指数	敷地境界
⑤水質	処理水放流後の河川水質	放流水路（北ノ沢川）、千厩川
⑥地下水	地下水の流れ	対象事業実施区域の周辺

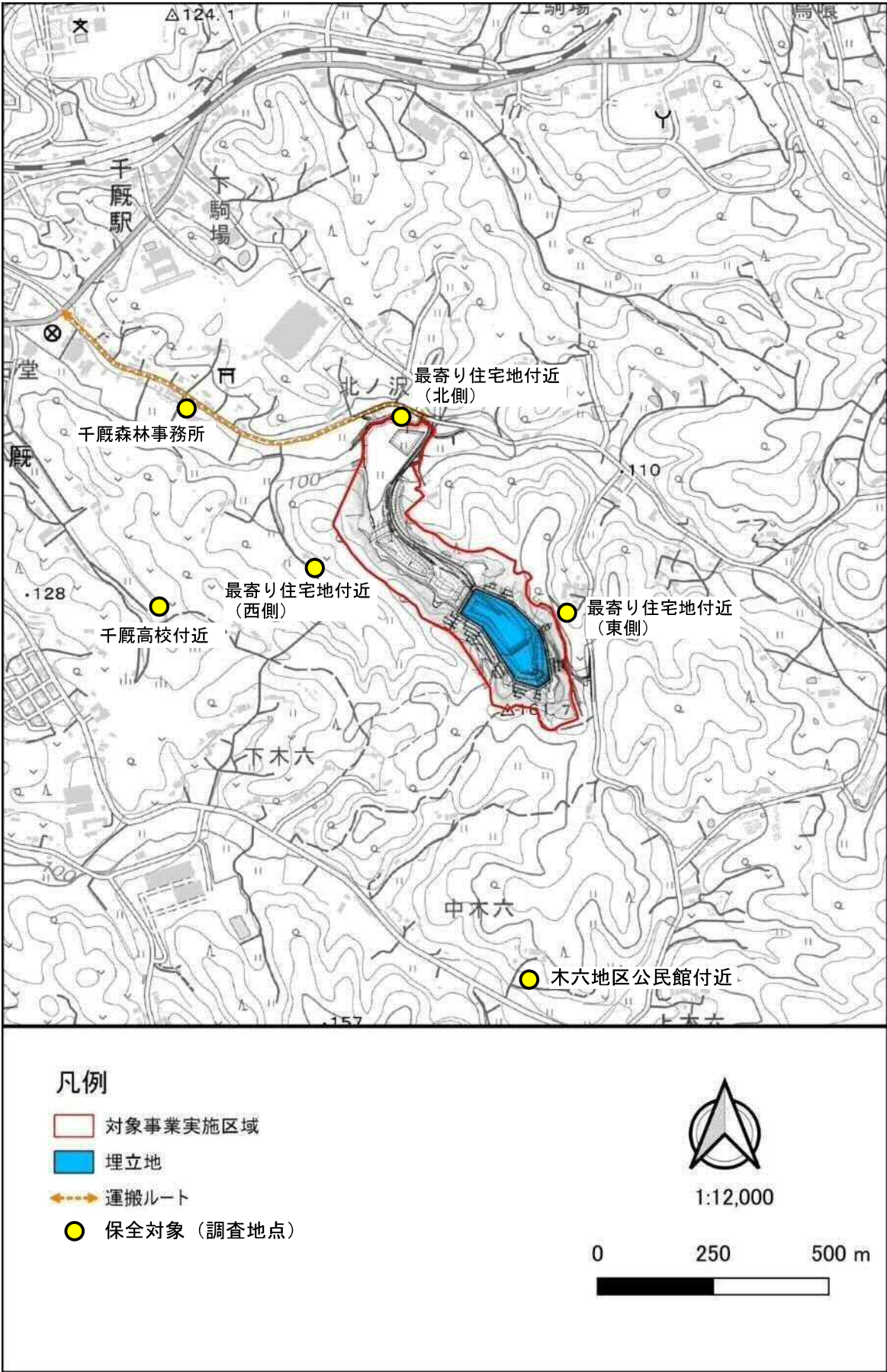


図 1：対象事業実施区域の位置及び現況調査・予測地点の主な位置

(5) 生活環境影響調査の結果

生活環境影響調査項目	調査の結果	予測項目	予測の結果	生活環境保全上の目標	環境配慮事項
①大気質	- 令和5年～6年にかけて実施した降下ばいじんの四季調査の結果、最大となった春季時に1.2g/m²/月となりました。 - 令和5年の冬季に実施した二酸化窒素、浮遊粒子状物質の調査の結果、日平均値は環境基準と比較しても非常に低い値でした。 - 気象については、谷地形に沿って流れる風が多く、年間を通じて西北西からの風が卓越しました。	①埋立作業による紛じん	建設機械の稼働に伴う季節別降下ばいじん量は、最大季節時で事業地敷地境界（北側）で9.3g/m ² /月でした。 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」において参考値として提案している10g/m ² /月であること	- 埋立区域への散水の実施 - 排ガス対策機械の使用 - 廃棄物運搬車両の出口でのタイヤ洗浄 - 埋立地周囲のネットフェンスの設置 - 日常の管理作業で飛散物を取り除く
		②廃棄物運搬車両の走行による排出ガス	廃棄物運搬車両から排出される排出ガスの1時間値の1日平均値は、二酸化窒素：0.013ppm、浮遊粒子状物質：0.024mg/m ³ でした。 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	- 二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること - 浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であること	- 廃棄物運搬車両の点検・整備 - 廃棄物運搬車両の適正な走行速度の指導
②騒音	- 環境騒音の結果は、昼間34～46dB、夜間29～37dBであり、全ての地点で環境基準を満たしました。 - 道路交通騒音は、千厩森林事務所付近で昼間61dB、夜間52dBであり、環境基準を上回りました。	①施設の稼働による騒音レベル	【敷地境界】 寄与値は、事業地敷地境界（東側）で昼間47dBでした。 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	寄与値が、昼間65dB以下、朝夕60dB以下、夜間50dB以下となること	- 低騒音型重機の使用 - 防音材による機械室の対策
		②廃棄物運搬車両の走行による騒音レベル	【周辺の保全対象】 環境騒音は、最寄り住宅地付近（東側）の予測結果が最も高くなり、昼間46dBでした。 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	環境騒音が、昼間55dB以下、夜間45dB以下となること	
			廃棄物運搬車両の走行台数を踏まえた道路境界上の昼間の騒音レベルは61dBでした。（廃棄物運搬車両の走行による寄与は0.3dBと僅かでした。） 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	現況の運行ルートでの測定値（61dB）を著しく悪化させないこと	- 車両運行時間の分散化 - 廃棄物運搬車両の点検・整備 - 廃棄物運搬車両の適正な走行速度の指導
③振動	- 環境振動の結果は、全ての地点で昼夜ともに25dB未満であった。 - 道路交通振動は、千厩森林事務所付近で昼間28dB、夜間25dB未満であり、要請限度値を満たしました。	①施設の稼働による振動レベル	【敷地境界】 寄与値は、事業地敷地境界（東側）で46dB（昼間）でした。 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	寄与値が、昼間65dB以下、夜間60dB以下となること	- 低振動型重機の使用 - 不要なアイドリングや空ぶかしを行わない
		②廃棄物運搬車両の走行による振動レベル	【周辺の保全対象】 環境振動は、最寄り住宅地付近（東側）の予測結果が最も高くなり、昼間31dBでした。 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	環境振動が、人が振動を感じ始めるとされる感覚閾値55dB以下となること	
			廃棄物運搬車両の走行台数を踏まえた昼間の振動レベルは31dBでした。 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	道路境界上の振動レベルが、要請限度の昼間65dB以下及び人が振動を感じ始めるとされる感覚閾値55dB以下となること	- 車両運行時間の分散化 - 廃棄物運搬車両の点検・整備 - 廃棄物運搬車両の適正な走行速度の指導
④臭気（悪臭）	令和6年8月21日に実施した対象事業実施区域内での臭気調査の結果は、参考目標とした規制基準を全項目で満たしました。	①施設（埋立地）からの臭気の発生	新最終処分場の埋立地から敷地境界までの距離は最短で約26mの距離があり、最も近接する集落までの距離は約70m離れることから、舞川最終処分場で実施した臭気調査（埋立地から0m地点）の結果を見る限り、近接する集落で臭気の影響が生じる可能性は限りなく低いと予測しました。	臭気の原因となる22物質の濃度及び臭気指数について、悪臭防止法に基づく規制基準を満たすこと （アンモニア：1ppm以下、メチルメルカプタン：0.002ppm以下、硫化水素：0.02ppm以下、トリメチルアミン：0.005ppm以下等）	- 準好気性埋立構造の維持による臭気の発生抑制 - 廃棄物運搬車両の出口でのタイヤ洗浄 - 即日覆土の実施
⑤水質	- 千厩川（合流後）での調査は、大腸菌数の環境基準を満足しなかったが、その他の項目は基準を満たしました。 - 放流水路（北ノ沢川）での調査は、豊水時に溶存酸素量の基準を満たさなかったが、その他の項目は基準を満たしました。	①浸出水処理施設からの処理水の放流	放流河川（北ノ沢川）の将来の水質は、生物化学的酸素要求量（BOD）1.3mg/L、浮遊物質 2.3mg/L、ダイオキシン類 0.47pg-TEQ/L でした。 千厩川における将来の水質は、生物化学的酸素要求量（BOD）1.0mg/L、浮遊物質 1.1mg/L、ダイオキシン類 0.066pg-TEQ/L でした。 予測の結果は生活環境の保全上の目標を満たしています。	生物化学的酸素要求量（BOD）2.0mg/L以下、浮遊物質 25mg/L以下、ダイオキシン類 1pg-TEQ/L以下であること	- 浸出水処理施設の適正な運転管理 - 定期的な水質検査の実施
⑥地下水	- 既存のボーリング調査の結果などから、地下水は、地形的な勾配に沿って流下しているものと推定されました。 - 地下水位の低水時、豊水時の地下水位観測の結果、季節的な変化はほとんどないことが確認できました。	①最終処分場の存在による地下水の流れ	本事業は、地形の現状地盤を活用して埋立地等を造成する計画となり、掘削箇所はわずかです。また、掘削箇所についても、風化花崗岩、強風化花崗岩等の地下水の流れる透水性の高い層を改変するものではなく、地下水の流れの影響は対象事業実施区域の周辺には及ばないと想定しました。	地下水の水位及び流動状況に影響を及ぼさないこと	地下水位のモニタリングによる異常の早期発見
総合評価	生活環境影響調査を実施した各項目とも事業の実施による影響の回避又は低減に係る対策（環境配慮事項）は適切であり、かつ施設の稼働後も生活環境の保全目標を達成すると評価しました。以上のことから総合評価として、本事業が周辺的生活環境に及ぼす影響はほとんどないと評価しました。 なお、本事業の実施に当たって、予測されない影響が生じた場合及びその恐れが予想された場合は速やかに対策を講じ、周辺環境に影響が生じることがないよう配慮を行います。				